

高齢者用肺炎球菌予防接種を受ける人へ

肺炎球菌性肺炎は、成人肺炎の 25～40%を占め、特に高齢者での重篤化が問題になっています。小児・成人ともに、侵襲性感染症（化膿性髄膜炎、敗血症、肺炎など）を起こすことがあります。中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎の起因菌となることもあります。脾摘患者、無脾症、リンパ腫などの患者では重篤になることが知られています。

予防接種を受けることができない人

- ① 明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある人
- ② 重篤な急性疾患にかかっている人
- ③ 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシー（※）を起こしたことが明らかな人
※「アナフィラキシー」とは、通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことをいいます。
＜上記①～③の他に、医師が接種不適応と判断した時は接種できません。＞

予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 予防接種で接種後 2 日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状がみられた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 今までに、免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 接種液の成分に対しアレルギーを起こすおそれのある人

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① ワクチン接種後 24 時間は健康状態の変化に注意しましょう。特に接種直後の 30 分以内は医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② 接種後は接種部位を清潔に保ち、接種当日は過度な運動を避けましょう。入浴は差し支えありません。
- ③ 接種後、接種局所の異常反応や体調の変化がある場合は速やかに医師の診察を受けましょう。

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種の効果

肺炎球菌による肺炎の重症度と死亡のリスクを軽減させます。インフルエンザワクチンとの同時期の接種で、肺炎リスクの高い高齢者においては肺炎予防効果と医療費抑制効果が示されています。

高齢者肺炎球菌ワクチン予防接種の副反応

局所の疼痛、熱感、腫脹、発赤が 5%以上認められます。筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱が認められることもありますが、いずれも軽度で 2～3 日で消失します。

予防接種による健康被害救済制度について

任意接種を受けて、万が一健康被害が起きた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による救済の対象となる場合があります。補償額は定期接種よりも低いですが、市で加入している保険により、定期接種とほぼ同額の補償を受けることができるようになっています。藤枝市が指定する医療機関でなくても、接種を受ける前までに、藤枝市に接種する医療機関を申請し、市が発行した予防接種実施依頼書を持って接種する場合は同じ扱いとなります。

※予防接種後の健康被害についての相談は、診察した医師または藤枝市感染症対策課へご相談ください。